

桃李歌仙 「小春日や」の巻

捌 丹仙

発句 小春日や色の褪せたる蔵書印 茉莉花

脇 綴じ目直して炬燵より出づ 丹仙

第三 馬子と行く蹄の音のかるやかに 素蘭

四 絹に包る初めての孫 ぼぼな

五 名月も嬉しきことも写メールで 蘇生

六 殊に漂ふゆず味噌の香 真奈

初折裏

一 表裏見せ黄葉の吹き寄する 丹仙

二 「阿」と「吽」とで解り合ふ仲 茉莉花

三 石臼に餅たつぷりと搗きあげて ぼぼな

四 時雨の道を猿が去りゆく 蘇生

五 シャコンヌの絃の転調アレグロに 真奈

六 恋の呪文をかけるなら今 素蘭

七	あいすくりん溶けないうちに告白す	茉莉花
八	夏の月差すビストロの窓	ぽぼな
九	どの籠も匂へる巴里の朝の市	丹仙
十	噂の好きな雀寄りくる	真奈
十一	落飾の門院歩む花のもと	素蘭
折端	田打ちの里の庵寂しき	蘇生

名残表

折立	戸を叩く音に春眠破られて	ぽぼな
二	ある晴れた日の沖に船見る	丹仙
三	登り来る士官ブーツの金の鉞	真奈
四	ちりぢりなりし水晶の夜	素蘭
五	抜き衣紋あわせ鏡で後れ毛を	蘇生
六	墨東界限交はす鱒酒	茉莉花
七	瘋癲の身を木枯らしのマドンナに	丹仙
八	小さな石鹸かたかたと鳴り	真奈
九	屋根裏のねずみ取り罫大手柄	素蘭
十	柿干す手止め爺は微笑む	ぽぼな

十一 池水の濁りに月の揺らめきて 茉莉花

十二 古きペルシヤのモスク晩秋 蘇生

名残裏

一 領袖は髭うそ寒く捕はれし 真奈

二 狼藉者と殿の一喝 素蘭

三 いっせいに鳩の飛び立つ鬼瓦 ぼぼな

四 眼鏡そろそろ買ひ換へるとき 茉莉花

五 きさらぎの花しつかりと見極めて 丹仙

拳句 陸ろくに居すわりて開く北窓 蘇生

平成二五年二月二日起首

同年二月一九日満尾